

断りにおける「理由表明」の韓日比較

－「頼み」「勧誘」「提案」の場面に焦点をあてて－

金楨憲*
bekka-kim@hanmail.net

<目次>

1. はじめに	4.2 考察
2. 先行研究	4.2.1 事実
3. 研究方法	4.2.2 事情
3.1分析資料	4.2.3 業務
3.2資料分類	4.2.4 予定
4. 分析結果及び考察	5. おわりに
4.1 分析結果	

主題語: 断り表現(Refusal Expressions), 理由表明(Expressed reasons), 理由内容(Details of the reasons), 私的理由(Private reasons), 公的理由(Public reasons)

1. はじめに

我々人間は言語生活を営んでいく上で「勧誘」「依頼」「要請」「指示」「命令」「招待」などの場面に遭遇する。これらに対して事実を言って断ったり、応じたくない場合には意図的に断ったりして断る際、断りを成功に持っていくための戦略(1)を用いる。この戦略はいくつかの類型に分類可能であり、相手との関係や状況によって適切な断りの戦略を使用することとなる。断りの戦略は今日に至るまで多くの研究者にきめ細かく分類されてきた。また、これからも分類と分析されていくだろう。この戦略というものを知るため遡っていくと、Beebe(1990)等の「意味公式」2)が元祖になっ

* 韓国外國語大學校 講師

- 1) 「断り」の方略(森山卓良1990)、断り方(カノックワン・ラオハブラナキット1995)、などと研究者によりその呼び方は多様である。
- 2) 「謝罪」「理由」「直接」など、人が物事を断る際、伝える表現をその意味内容によって分類した物である。
例: 「謝罪」- ごめん、すみません。「理由」- 先約がありますが... 「直接」- いやだ、だめ、無理 等。

ている。これを生駒知子・志村昭彦(1993)が参考にして、彼らならではの「意味公式」を定めて、日本語母語話者と英語母語話者、アメリカ人日本語学習者を対象に「断り表現」にあられるプラグマティック・トランスファー³⁾について研究している。これをかたぎりに以後、多くの研究者は生駒知子・志村昭彦(1993)「意味公式」を参考にして、各々の研究者が手に入れたデータを意味内容によって「意味公式」を分類し、分析してきている。

その「意味公式」の中で、最も対人関係を良い方向に運ぶための婉曲表現の一つとして「理由表明」が挙げられている。「理由表明」を用いる根本的な目的は断られる側および断る側の人間関係の損失を最小限に留めようとすることである。例えば、友だちからの呼び出しに応じたくない場合、色々な断りのストラテジーが考えられるが、良い対人関係を気にするのであれば、最大限、聞き手の気分を損なわぬように何とか納得させようとするだろう。そこで、なぜ断らなければならないかを言うわけである。これを今までの先行研究の「意味公式」の分類においては単に「理由」又は「回避」と位置づけられて、詳しい理由内容にまではあまり触れていない。そこで、本調査では生活の中で頻繁に起こりうると思われる「頼み」「勧誘」「提案」に対する「断り表現」を対象にして「断り表現」のうち、「理由表明」のみを挙げて理由内容の類型別に分類する。理由内容が個人的な理由の場合は「私的理由」、公的業務や予定の場合は「公的理由」として、韓国語と日本語ではどのような理由内容があらわれるか、また、「親疎関係」においてはどの理由内容が多くあらわれるか、比較を目的とする。

2. 先行研究

尾崎(2006)は断り場面を「役員を受け入れるよう依頼されて断る」「訪問販売の人の依頼を断る」「食事を勧められて断る」の3つの場面において典型的に現れうる「詫びの表現」「断りの理由説明」「断りの述部」等が発話データの中にどのように現れたかを中心に分析している。社会人と高校生を対象にし、面接調査とアンケート調査を行った。その結果、各場面における「断りの理由説明」の内容は異り、最も理由説明が多かった場面は「食事勧め」であり、「用事」の内容が60.2%もあると報告している。他に「健康状態」「食事完了」「食事予定」などがあるものの、詳しい理由の内容が提示されていない点が残念である。

3) 生駒知子・志村昭彦(1993)は母語から学習言語への転移を「断り表現」でのプラグマティック・トランスファーであると述べている。

전(2006)は、テレビドラマを用いて拒絶の類型を制壓型、回避型、融化型の3つに分けて分析を行っている。結果、回避型 > 制壓型 > 融化型の頻度順であり、回避型のうち、弁明が33.7%を示し、最も多く用いられていると報告している。전(2006)は弁明表明を消極的な方法でありながら相手のメンツを守りつつ、「相手の要請または提案に対して断らなければならない理由が自分自身にあることを伝える方法である」と述べている。この弁明表明を임・김(2010)では理由説明として、その内容を4つに分けている。

임・김(2010)では「先生の依頼を断る」という場面を設定し、韓日の大学生及び大学院生を対象に、面接調査とアンケート調査をして韓国語と日本語の拒絶行動に表れる理由を内容別に分析した。理由の内容を<私的>、<公的>、<慣例的>、<その他>の4つに分けた。結果、韓国語の場合は私的 > 慣例的 > 公的、日本語の場合は慣例的 > 私的 > 公的の順であると報告している。この研究では少ない被実験者と聞き手と話し手の関係設定が明確になっていない点、また、それぞれ多用されている理由の出現理由に関しては言及が欠けている。

本調査では上記の先行研究を参考に、韓国語と日本語の「断り表現」にあらわれる「理由表明」を「頼み」「勧誘」「提案」の3つの場面において①私的、公的理由における分類、②親疎関係における分類を試みる。

3. 研究方法

3.1 分析資料

談話の分析資料としては、自然談話のほか、アンケート、ロールプレイ、インタビュー、作文、小説、映画、テレビドラマなど多くあるが、その中でテレビドラマからの資料をとることにした。その理由については以下の通りである。

脚本の記述は、その脚本家の個別性に基づくものであるが、その脚本によるドラマの内容や表現は、ドラマとしてという限定つきではありながら、多くの視聴者(理解主体としてのコミュニケーション主体)に受け入れられるものでなくてはならない。また、例外はあるとしても、脚本家はより多くの人に受け入れられることを目指して表現しようとするであろう。しかも、そこには、脚本家自身の個別の認識や考えではなく、取材等を通じて得られた、多くの他者の考えや

知識、情報なども反映されているわけで、その意味では、個別的でありながら、そこにはかなりの一般性があるといえるのである。こうしたシナリオ(およびそのドラマのDVDを参照)を考察資料に加えることで、筆者自身の内省による考察の偏りを補正することが可能になるといえるだろう。
(蒲谷(2013:52)『待遇コミュニケーション論』)

蒲谷(2013:52)が指摘していることに付け加えるとドラマは当時の社会で話題になっていることや時代性までも含むものであるから共時的言語行動の分析資料としても妥当性及び客観性が持てると思われる。また、分析の対照にしたドラマの採択は多くの先行研究で用いられたドラマのリストを参考にして選んだ。

本調査で用いる資料は「頼み」「勧誘」「提案」に対する「断り表現」であり、以下のテレビドラマから抜粋した。

<表1>韓日ドラマ資料

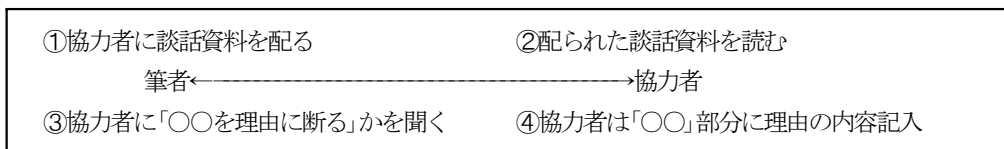
韓国			日本		
題目	回数	年度	題目	回数	年度
내 이름은 김삼순	1-16話	2005	1リットルの涙	1-11話	2005
하얀 거탑	1-20話	2007	結婚できない男	1-12話	2006
태양의 여자	1-20話	2008	クロサギ	1-11話	2006
결혼 못하는 남자	1-16話	2009	蛍の光	1-10話	2007
찬란한 유산	1-28話	2009	Around40	1-11話	2008
열혈 장사꾼	1-20話	2009	ブザー・ビート	1-11話	2009
최고다 이순신	1-24話	2013	曲げられない女	1-10話	2010
내 딸 서영이	1-20話	2013	陽はまた昇る	1-09話	2011
광고천재 이태백	1-16話	2013	冬のさくら	1-09話	2011

韓国ドラマは9本、総180話であり、日本ドラマは9本、総94話である。意図してはいなかったが、約倍近く、話数の差が生じたため、韓国と日本の断りの「理由表明」出現数においてはパーセンテージで比較することとする。

3.2 資料分類

断る理由を大きく私的理由、公的理由に分けて、さらに下位分類した。まず、下位分類において、筆者独断の分類にならないように、大学と語学院で日本語を教えている筆者の

同僚の韓国人母語話者 5人(男2、女3)と日本人母語話者 5人(男1、女4)に協力してもらった4)。以下に理由内容の分類における手順を提示する。



「理由表明」の「談話」資料を①協力者に配り、②目を通してもらった。その後、③筆者が協力者の10人に、目を通してもらった「理由表明」資料を一つ一つ見せながら、例えば「理由表明」資料の中の「結構です。大切なのは中身だから」を見せてから、何を理由に断っているかを聞き、協力者に④「○○」の部分に理由の内容を書いてもらった。そしてその後、分類してまとめた。理由内容の用語は全て広辞苑(1998)を参考に当てはめた。分類された理由内容の中、相手を理由にする場合と物を理由にする場合は、回避が主な目的なので「転嫁」と分類した5)。下位分類に当たって、理由内容に当てはめる語彙は広辞苑を参考にし、分類の結果は以下の通りである。

韓国語の場合、〈メンツ〉 〈信念〉 〈豫定〉 〈轉嫁〉 〈能力〉 〈事實〉 〈當然〉 〈希望〉 〈事情〉 〈業務〉 〈義務〉 〈嗜好〉 〈健康〉 〈完了〉 〈すまなさ〉の15に分けられた。

日本語の場合、〈メンツ〉 〈信念〉 〈豫定〉 〈轉嫁〉 〈能力〉 〈事實〉 〈當然〉 〈希望〉 〈事情〉 〈業務〉 の10に分けられた。以下の〈表2〉にその詳細を示す。

〈表2〉 韓国語と日本語の「断り表現」における「理由表明」の下位分類

理由内容	理由内容説明
メンツ	人に会わせる顔がないことを言う
信念	固く信じて疑わない真心を言う
豫定	約束を含むこれからのこと、あらかじめ決めておいたことを言う
轉嫁	責任などを他になすりつけて言う
能力	物事をなし得る力の有無を言う
事實	真実の事柄を言う

4) 特に、理由内容の分類において多くの助言を惜しまなかった慶熙大学校の伊波浩樹先生に感謝する。

5) 例) 「주인이 여자만 원해서요 그 집에 여자만 살거든」

これから過ごす部屋を見たいという頼みに不動産の人は家の主に断りの責任を轉嫁している。

當然	道理上からそうであるべきだと信じていることを言う
希望	ある事を成就させようと願望していることを言う
事情	物事がある状態になっていることを言う
業務	なすべき仕事を言う
完了	完全におわったことを言う
義務	自己の立場に応じてしなければならないことを言う
嗜好	好き嫌いを言う
健康	体の具合いや状態を言う
すまなさ	相手に悪く、自分の申し訳ないを言う

4. 分析結果と考察

4.1 分析結果

韓国語の場合、私的理由と公的理由が重複するのは<事情> <轉嫁> <完了> <豫定>の4つあった。<業務>は会社の仕事と関連していることから公的理由とした。日本の場合は、私的理由と公的理由が重複するのは<能力>の1つだけあった。

<表3> 「理由表明」出現数 *出現数(頻度数)

区分		出現數 (%)	實用例	用例 出處
韓 國	私的 理由	メンツ	케익 부스러기 얻어먹자고	결혼 못하는 남자
		義務	집에 가서 할머니랑 먹어야 돼요	찬란한 유산
		嗜好	비키니보단 원피스수영복을 더 좋아 하 구요	태양의 여자
		信念	어중간하게 살면 다른 사람들하고 달라 질 거 없어요	광고천재 이태백
		豫定	오늘은 유진이를 한번 만나 볼까 해요	결혼 못하는 남자
		轉嫁	이제 도시락 필요 없어요 오빠가 도시락 싸오지 말래	찬란한 유산
		能力	저한테 그럴만한 돈이 / 내 코가 석자 라서	열혈 장사꾼
		健康	오늘 퇴원해서 / 위염이 좀 있어서요	찬란한 유산

韓國	私的 理由	事實	10(9.3)	난 다이어트중이에요	태양의 여자
		すまなさ	5(4.6)	그러지 마세요... 너무 많이 받았어요 지금 까지도	결혼 못하는 남자
		完了	4(3.7)	아닙니다, 벌써 먹었어요	최고다 이순신
		希望	9(8.3)	저희, 그 일에 관여하고 싶지 않습니다.	하얀 거탑
		事情	20(19)	싫다니까요 언제 쫓겨날지 모르는데 한 푼이라도 아껴야죠	내이름은 김삼순
		合計	88(81.5)		
	公的 理由	轉嫁	1(0.9)	주인이 여자만 원해서요	최고다 이순신
		完了	4(3.7)	이미 계약서 쓰고 왔는데	찬란한 유산
		當然	5(4.6)	(배우 선정에 있어서) 이권 제 권한이 니까요	최고다 이순신
		業務	7(6.5)	야근해야 돼서요	광고천재 이태백
		事情	1(0.9)	근데 거기가 지금 상황이 아주 안좋고 해서	열혈 장사꾼
		予定	2(1.9)	드라마 선약이 있어요 다른 거 일체 하지 않겠다는 조건으로	최고다 이순신
	合計	20(18.5)			
日本	私的 理由	希望	4(7.4)	どうしてもこの病院を存続させたいです	Around40
		當然	1(1.9)	大体俺は、お前らの専属じゃないの	クロサギ
		豫定	8(14.7)	今日は、これから、大切な人を食事に誘 うつもりなんで	Around40
		メンツ	2(3.7)	アホに見えるから	ホテルの光
		轉嫁	3(5.6)	いや~それはまずいですよ(中略)さおり にバレたらどうなるか	結婚できない男
		信念	3(5.6)	結構です。大切なのは中身だから	Around40
		能力	3(5.6)	そんなの食べられない	曲げられない女
		事實	10(18.5)	生ごみ、ベランダに出しっぱなしだったから すみません。今から出かきなさいなくて	結婚できない男
		事情	9(16.6)	遠いから	それでも、生きて ゆく
	合計	43(79.6)			
	公的 理由	業務	10(18.5)	今日はこれから一泊二日の山岳訓練だ 今日は無理かも。部長とBBAの人達の食 事会があるの。	陽はまた昇る ブザービーター
		能力	1(1.9)	申し訳ありませんが、空いているベット がないんですよ	冬のさくら
		合計	11(20.4)		

今回の資料の分類作業で気づいたことであるが、ドラマの話数が増えるほど「理由表明」の内容がバラエティーになっていくことである。韓国語が15種類、日本語が10種類の理由内容になったが、日本ドラマの話数か本数を増やしていたならば韓国語でしか見られな

かった<義務>、<嗜好>、<健康>、<すまなさ>、<完了>の理由内容があらわれたかもしれない。しかし、韓国と日本のテレビドラマの話数が倍近く差があったことや、断りの「理由表明」もまた倍近く差があったにもかかわらず、種類の差は5つしかなかった。このことを考えると総94話もある資料の中から10種類ばかりあるということは日本の断りの「理由表明」にはこの10種類の断りの内容がもっとも好んで使われているということが推測できる。特に、結果の上位を示している<事実18.5%>、<業務18.5%>、<事情16.6%>、<予定14.7%>がそうである。一方、韓国語の方は<事情19%>、<予定13.9%>、<事実9.3%>、<希望8.3%>が好んで使われていることがわかる。

以下に、<表3>をもとに韓日の親疎関係と場面別の「理由表明」使用割合を以下の<表4>にまとめた。

<表4>親疎関係と場面別「理由表明」の使用割合 * (出現数)

親疎	場面	公私	韓国語	合計	日本語	合計
親しい 関係	勧誘	私的	轉嫁(1) 希望(1) 事実(1) 完了(1) 事情(4) 予定(7) 能力(2) 健康(2)	(19) 17.6%	予定(1) 事情(2) 事実(1)	(4) 7.4%
		公的	予定(1)	(1) 0.9%	業務(3)	(3) 5.6%
	頼み	私的	事情(2) 信念(1) 希望(1) 轉嫁(1) 嗜好(1)	(6) 5.6%	予定(3) 信念(1) 事情(1) 希望(1) 能力(1)	(7) 13%
		公的	-	-	業務(3)	(3) 5.6%
	提案	私的	すまなさ(2) 完了(1) 信念(1)	(4) 3.7%	希望(1) 信念(1) 能力(2) 轉嫁(2) 豫定(1) 事実(2)	(9) 16.6%
		公的	-	-	業務(2)	(2) 3.7%
親しくない 関係	勧誘	私的	義務(1) 事実(4) すまなさ(2) 豫定(6) 希望(2) 嗜好(2) 健康(2) メンツ(1) 事情(5) 完了(1)	(26) 24.1%	事実(5) 予定(2) 事情(3) 轉嫁(1) メンツ(1)	(12) 22.2%
		公的	業務(4) 當然(1)	(5) 4.6%	業務(1)	(1) 1.9%

親しくない関係	頼み	私的	能力(3) 嗜好(1) 希望(1) 予定(1) 轉嫁(2) 事情(6) 健康(1) 事實(1)	(16) 14.8%	當然(1) 事情(3) 事實(1) メンツ(1)	(6) 11.1%
		公的	當然(4) 轉嫁(1) 事情(1) 完了(3) 業務(2)	(11) 10.2%	業務(1) 能力(1)	(2) 3.7%
	提案	私的	予定(1) 事實(4) すまなさ(1) 事情(3) 希望(4) 轉嫁(1) 信念(2)	(16) 14.8%	事實(1) 希望(2) 信念(1) 予定(1)	(5) 9.2%
		公的	完了(2) 予定(1) 業務(1)	(4) 3.7%	-	-

親疎の区別については三宅(1994)のウチ、ソト、ヨソの区別を参考にした。三宅(1994)は「ウチの人間は自己のまわりの家族やごく親しい人、ソトの人間はごく親しくないが自己やウチと関連のある人々、ヨソの人間は自己やウチとは関係ないが何かのきっかけで関係をもちえる人々」と定めている。これに従い、本調査では三宅(1994)のウチを親しい関係、ソトとヨソを親しくない関係と区別した。

今回の調査に限っての結果であるが、韓国語と日本語双方、公的理理由より私的理理由が多様にあられた。特に、私的理理由の中でも韓国語、日本語共通して<予定>、<事情>、<事實>の理理由内容が多用されていることがわかる。

公的理理由においては、韓国語が日本語の<業務>以外にも様々な理理由内容があられている。日本語の場合、公的理理由として相手や物を挙げて、理理由を言うのを避けている。つまり、<轉嫁>または<予定>などの私的だと思われる表現に対して回避する傾向があると考えられる。

韓国語の場合、親しい関係より親しくない関係において「理由表明」を多用している。また、「勧誘」「頼み」「提案」に公的な「理由表明」より私的な「理由表明」が多くあられている。

全体的に、親しい「勧誘」場面では<予定> <事情> <能力、健康>の順、親しい「頼み」の場面では<事情>、親しい提案の場面では<すまなさ> が上位を占めている。

また、親しくない「勧誘」の場面では<予定> <事情> <事實、業務>の順、親しくない「頼み」の場面では<事情> <当然> <能力、完了>の順、親しくない「提案」の場面では<希望、事實> <事情>の順が上位を占めている。

「勧誘」「提案」「頼み」すべてにおいて最も多く出現しているのは<事情21(20.9%)>の「理

由表明」が上位を占めている。

日本語の場合には、韓国語の場合と異なり、親しい関係と親しくない関係、両方バランスよく「理由表明」があらわれている。公私の区分においては韓国語と同様に私的な「理由表明」が多用されている。

全体的に親しい「勧誘」場面では<業務>が上位、親しい「頼み」の場面では<業務、予定>が上位、親しい「提案」の場面では<業務、能力、転嫁、事実>が上位となった。

また、親しくない「勧誘」の場面では<事実> <事情>が上位、親しくない「頼み」の場面では<事情>が上位、親しくない「提案」の場面では<希望>が上位となった。「勧誘」「提案」「頼み」すべてにおいて<業務>と<事実>の「理由表明」が上位を占めている。

4.2 考察

ここでは韓国語、日本語共に出現数が高かった<事実>、<事情>、<業務>、<予定>のうちいくつかの例を挙げながら分析を行う。

4.2.1 事実

<최고다 이순신 1화 (신발가게에서 권유장면)>

윤수정: 이거 하나 신어. 내가 선물로 하나 사줄게. 어제 못 간거 대신해서 이거라도

송미령: ①됐어 언니나 신어. 난 많은데 뭐.

윤수정: 아니야 나아말로 정말 많은데 뭐. 몇일 전에도 그이가 하나 사줬어. 결혼기념일 이었거든.

<結婚できない男 7話(ナツミがクワノを食事に誘う)>

ナツミ: 晩御飯食べました? みちるちゃんと食事してたんですけど、結構余っちゃったんですよ。良かったらいらいませんか?

<中略>

ナツミ: 聖域から出て、こっちまで来てください。

クワノ: ...あ、思い出した。そうだ。②帰りに寿司買って来たんだ。食べなきゃ。

ナツミ: じゃ、いいんですね。

①の<事実>の「断り表現」は韓国でよく耳にする親しい人の中での断り表現である。話し手が「勧誘」を働き、聞き手が断り、聞き手がまた話し手になり、「언니나 신어」のように、

相手にそうするように行動要求をする。また、断る理由として「난 많은데」といい、自分は充分靴が足りていることを<事実>に相手に断りの意を伝えている。ここで、<事実>というのは確認できる方法や手段がないため、断り側が<事実>であるかのように話すとき聞き手は殆んど受け入れて断りは成功となる。

②も食事の誘いに「帰りに寿司買って来たんだ」といって①の<事実>と同じく本当の事実が確認できないため、誘い側は断りをうけ入れるしかない。そして「食べなきゃ」を言うことで買ってきたものをだめにすることはできないという強い意志を相手に伝えている。

4.2.2 事情

<열혈장사꾼 5화(만나는 약속시간을 재확인하는 장면)>

하류 : 8시였던가? 가야되겠네.

다혜 : 아뇨, 사실 제가 못 갈 것 같아서요. 미안해요. ③급한 일이 생겼어요.

하류 : 그래요?

다혜 : 담에 봐요 그럼.

<브ザービートー 1話(会社の飲み会への誘い)>

菜月 : 今ね、部長と宇都さんたちと一緒に代々木さんと飲みに来てるの。<中略>
直輝も来ない?

<中略>

直輝 : 俺、今日、やめとくわ。④ハーツから連絡あるかもしれないし。

例からわかるように<事情>は<事実>と違って聞き手に話し手が置かれた一連のことについて理解してもらえることを望む含意的表現であろう。

③では具体的な断りの理由を明かしてはいないが「급한 일이 생겨서」といって、断りの必然性を前に出し、今この場を離れて望むところに行かなければならないという慌ただしさをアピールすることで、既に約束したことを一気に無効にしてしまう機能を持つ理由内容である。つまり、働きかけの相手から見ると誠意がない話者中心の表現である。

④は直輝が既存の会社と再契約するかそうでなければ他の会社と契約を結ぶかを悩んでいる。気をもみながら新しい会社からの連絡を待っている最中に飲み会への誘いが入る場面である。

④は③と同じく<事情>に分類された拒絶内容であるが、③と違って断りの理由を具体

的に述べている。「ハーツから連絡あるかもしれないしさ」といって、話し手自身の<事情>をわかってくれることを望み、聞き手の情に訴えていることがわかる。

4.2.3 業務

<최고다 이순신 12화(식사권유 장면)>

신이정 : 클럽에서 신세 진거 갚을게요. 오늘 점심 어떠세요?

박찬우 : 아뇨 괜찮습니다. ⑤진료가 있어서요.

<ブザービーター 5話(食事勧誘場面)>

選手 : 久しぶりに飲みにでも行くか?

菜月 : あ・・今日はやめておきます。まだ⑥仕事があつて。でも、今度、話聞いてもらっちゃおうかな。

選手 : OK! それじゃあね。

公的理由として分類できた<業務>は韓国語、日本語両方とも少なくない出現数を見せている。<業務>を理由に断る行為自体は職務遂行の責任を前提に相手の働き掛けが職務遂行において妨害になることをあらわして、<事実>または<事情>とはまたことなるニュアンスの断りへの必然性をアピールできる。

私的な理由を述べて伝えたときは、再び、「勧誘」「提案」「頼み」などを言われる余地がある。しかし、公的理由にはそのような「勧誘」「提案」「頼み」などがしにくくなる可能性が高くなる。実際、筆者の知り合いの日本語母語話者は韓国人の知り合いからの食事の誘いをうけ、丁寧に用事があるからとことわったが、「그래도」と再び誘われたそうだが⁶⁾。そこで、仕事を理由にやっと断ることができたという。

⑤の「진료가있어서」は患者を連想させて⑥の仕事もまた会社の仕事を連想させてこれ以上、「勧誘」「提案」「頼み」などを前もって遮断している。⑤と⑥全部は最後まで言いきって断りを遂行していない。このことはノーと言って相手を失望させる表現とは異なり、実に思いやりのある語法なのである⁷⁾。

6) 김정현(2013)「거절전략의 변화와 의미 고찰-1차 거절표현에서 2차 거절표현을 중심으로」 p.75

7) 言い切らない日本人のコミュニケーションについては待遇表現や敬語表現など多くの研究者に取り扱われている。特に、水谷(1993)は「すべてを言い尽くす話し方は、むしろ『切り口上』としてうとまれる」と述べている。このように主張できる根拠を次の2冊の本から見つけることができる。

奥山益朗(1972)『日本人と敬語』東京堂出版

4.2.4 予定

<하얀거탑 7화(장준혁이 부탁을 하러 온 것을 알고 거절하는 장면)>

장준혁 : 계셨군요.

노민국 : 이 시간에 어떻게…

장준혁 : 좀 들어가도 되겠습니까?

노민국 : ⑦손님이 오시기로 했는데…

장준혁 : 잠깐이면 됩니다.

<Arround40 7話(姉が弟の独り暮らしが心配で弟の部屋に入り込んできているところ、弟の恵太朗が姉に帰って行くことを頼む場面)>

恵太朗 : 帰ってよ!

姉 : 嫌! 嫌々! 結婚してくれる[結婚する]って言うまで、帰らないんだから!

恵太朗 : ⑧約束があって、出かせなさいいけないから。

断る理由内容の中の<予定>は、現在おかれた状況及び場面をうまくかわすことができ、相手の気分を害することを最小限にするためによく使われるストラテジーの一つである。ここでは先約を挙げて、先約さえなければ、働きかけてきた相手の要請または何らかの望みことに応じられることを含意的にあらわすからである。

⑦のちょっと時間をつくって話そうということに対して「손님이 오시기로 했는데」という相手に応じられないことを伝えている。⑧もまた「約束があって」とはっきり<予定>を理由に応じられないと伝えている。

5. おわりに

本調査において筆者は生活の中、頻繁に起こりうると思われる「頼み」「勧誘」「提案」の3つの場面を選んだ。「頼み」の中でも、お金の「頼み」なのか、それとも仕事の「頼み」なのかなど区別せず、調査を行った。それは、「頼み」「勧誘」「提案」において、全体的な「理由表明」の内容を把握するためであった。それぞれの場面における詳しい分類は今後の課題に

しておきたい。

本調査の資料に限っての結果をみると、全体的に韓国語の場合、相手に暗黙の理解を望むことを暗示した<事情>の「理由表明」、日本語の場合、親しい関係では仕事をしなければならないという責任を強調する<業務>の「理由表明」と真実を言って相手に訴える<事実>の「理由表明」を多用していることがわかる。

多くの理由内容の中で例をあげて分析した<事実><事情><業務><予定>は韓日共に理由の内容としてもっとも使われていることがわかる。個人差はあるものの、この結果は実際の生活の中においても、もしくはこの文を読んでいる読者もまた例にあげた4つの理由内容を断る際にもっとも用いているのではないだろうかと思われる。

日本人の会話の特徴に、イエスなのかノーなのかはっきりしない曖昧な表現がよく用いられているという。これは水谷(1993)が言っているようにすべてを言い尽くす話し方は、むしろ『切り口上』としてうとまれるという日本のコミュニケーションにおいて一般的な言語行動だと言われている。それが可能なのははっきり言わなくても、最後まで言い切らなくても日本独特の「察し」があるからである。このような観点からみると「理由表明」をするということ(話し手が聞き手に事実であれ、嘘であれ言い伝える)は一般的でなくなってしまうのである。それにもかかわらず、「理由表明」を使うのは、断りの場面において、対人関係の信頼性を保つか、断りから来るリスクを恐れて最小限に留めようとする目的があるからである。

【参考文献】

- 生駒知子・志村明彦(1993)「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：「断り」という発話行為について」『日本語教育』79号
- 奥山益朗(1972)『日本人と敬語』東京堂出版
- 尾崎喜光(2006)「依頼・勧めに対する断りにおける配慮の表現」『言語行動における『配慮』の諸相』くろしお出版
- 水谷信子(1993)『『共話』から『対話』へ』『日本語学』12 明治書店
- 三宅和子(1994)「日本人の言語行動パターン—ウチ・ソト・ヨソ意識—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』9号 筑波大学留学生センター
- 蒲谷宏(2013)『待遇コミュニケーション論』大修館書店
- 芳賀綴(1979)『日本人の表現心理』中公叢書
- 森山卓郎(1990)『『断り』の方略—対人関係調整とコミュニケーション』『月刊日本語』vol.19
- 김정현(2013b)「거절전략의 변화와 의미 고찰-1차 거절표현에서 2차 거절표현을 중심으로-」『日本近代學研究』제41집
- _____ (2013c)「한일 거절표현 구조 일고찰-의미공식을 중심으로-」『日本言語文化』제25집

임영철·김윤희(2010)「한일 거절표현이 구조에 대한 사회언어학적 접근」『일본연구』제43집
전정미(2006)「거절화행의 실현양상」『한말연구』제19호

【辞典】

広辞苑(1998) 岩波書店出版 第二版 昭和62年 金田一京助編

논문투고일 : 2014년 06월 10일
심사개시일 : 2014년 06월 20일
1차 수정일 : 2014년 07월 09일
2차 수정일 : 2014년 07월 15일
게재확정일 : 2014년 07월 20일

〈要旨〉

断りにおける「理由表明」の韓日比較

- 「頼み」「勧誘」「提案」の場面に焦点をあてて -

本調査では生活の中で頻繁に起こりうると思われる「頼み」「勧誘」「提案」に対する「断り表現」を対象にして「断り表現」のうち、「理由表明」のみを抜粋して理由内容を類型別に分類した。理由内容が個人的な理由の場合は私的理由、公的業務や予定の場合は公的理由として、韓国語と日本語ではどのような理由内容があらわれるか、また、親疎関係においてはその理由内容が多くあらわれるか、比較を行った。

結果、韓国語の場合、〈メンツ〉〈信念〉〈豫定〉〈轉嫁〉〈能力〉〈事實〉〈當然〉〈希望〉〈事情〉〈業務〉〈義務〉〈嗜好〉〈健康〉〈完了〉〈すまなさ〉の15の理由内容を用いていることがわかった。

また、日本語の場合、〈メンツ〉〈信念〉〈豫定〉〈轉嫁〉〈能力〉〈事實〉〈當然〉〈希望〉〈事情〉〈業務〉の10の理由内容を用いていることがわかった。

さらに、この結果から、出現数を比較してみても高い順に、韓国語の方は〈事情19%〉、〈予定13.9%〉、〈事実9.3%〉、〈希望8.3%〉が好んで使われていることがわかった。日本語の方は〈事実18.5%〉、〈業務18.5%〉、〈事情16.6%〉、〈予定14.7%〉であることがわかった。

全体的に韓国語の場合、相手に暗黙の理解を望むことを暗示した〈事情〉の「理由表明」、日本語の場合は、親しい関係では仕事をしなければならぬという責任を強調する〈業務〉の「理由表明」と、真実を言って相手に訴える〈事実〉の「理由表明」を多用していることがわかる。

**A Study on Comparison between Korean and Japanese of 「Expressed Reasons」
of Refusal Expressions**

- focused on the scene of “request”, “recommendation” and “proposal” -

In this study, the survey on 「Expressed Reasons」 only to be extracted refusal expressions concerning “request”, “recommendation” and “proposal” in daily life has been conducted and classified by type. There are the outcomes of the study in case of private reasons for a personal reason and official duties and schedule for the public reasons, a researcher carried out the survey concerning a comparison Korean and Japanese, we wonder reason why both languages express refusal in the relationship and how many reasons come out.

As a result, a research found that in the case of Korean there are 15 reasons to be used as 〈respectability〉 〈belief〉 〈schedule〉 〈imputation〉 〈ability〉 〈fact〉 〈naturalness〉 〈hope〉 〈circumstance〉 〈work〉 〈duty〉 〈preference〉 〈Health〉 〈completion〉 〈sorriness〉.

Additionally, in case of the Japanese there are 10 reasons to be used 〈respectability〉 〈belief〉 〈schedule〉 〈imputation〉 〈ability〉 〈fact〉 〈naturalness〉 〈hope〉 〈circumstance〉 〈duty〉 respectively.

Also, the results from the comparison in sequence of high figure, there are often used 〈circumstance 19%〉 〈promise 13.9%〉 〈truth 9.3%〉 〈hope 8.3%〉 in Korean respectively. On the other hand, there are used 〈truth 18.5%〉, 〈work 18.5%〉 〈circumstance 16.6%〉 〈promise 14.7%〉 in Japanese.

Overall, in case of Korea, they showed expressed reasons of 〈circumstance〉 hoping to understand the other party implicitly, but in case of Japanese, reasons expressed of 〈work〉 emphasizing responsibility in close relationship and of 〈fact〉 appealing to say truth in large number.